

老化に伴う諸疾患における 八味丸の効能と限界



福島県立医科大学会津医療センター
漢方医学講座 三渚忠道

1

『傷寒論』『金匱要略』における 老化・高齢 関連の記載

『傷寒論』 “老” “齡” “年” 出現せず

『金匱要略』 “齡” 出現せず

“老”

升麻鼈甲湯方。
升麻二兩。當歸一兩。蜀椒炒。去汗。一兩。甘草二兩。
鼈甲手指大。一片。炙。雄黃半兩。研。
右六味。以水四升。煮取一升。頓服之。老小再服取汗。

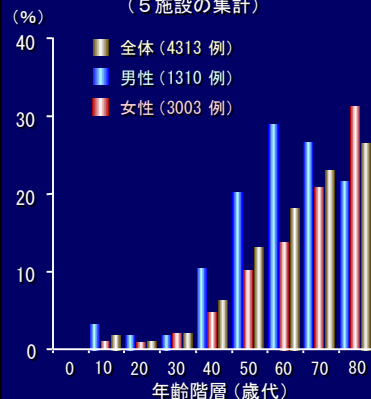
外臺。走馬湯。治中惡心痛腹脹。大便不通。
巴豆二枚。去皮心。熬。杏仁二枚。右二味。以綿纏槌令碎。
熱湯二合。捻取白汁飲之。當下。老小量之。
通治飛尸鬼擊病。

“年”

問曰。婦人年五十所。病下利。數十日不止。暮即發熱。
少腹裏急。腹滿。手掌煩熱。脣口乾燥。何也。
師曰。此病屬帶下。何以故。曾經半產。瘀血在少腹不去。
何以知之。其證脣口乾燥。故知之。當以溫經湯主之。

腎虚治療薬・八味(地黄)丸

年齢別使用頻度
(5施設の集計)



適応疾患

疼痛性疾患	腰痛症
呼吸器疾患	喘息・肺気腫・咳嗽
性的機能	遺精・陰萎
腎疾患	腎炎・ネフローゼ症候群
内分泌代謝	糖尿病・高血圧
眼科疾患	白内障
皮膚疾患	老人性癬癢症

出典 漢方概論
漢方処方解説
症候による漢方治療の実態

3

生体を維持する三要素

生命活動を営む根源的エネルギー
失調病態: 氣逆(上衝)、氣鬱、氣虚



生体を物質的に支える
赤色の液体
失調病態: 瘀血、血虚

生体を物質的に支える
無色の液体
失調病態: 水毒(水滯)

4

氣	分類	供給	臓(腑)	治療
	先天の氣	親より授かる	腎	補腎
	後天の氣	消化・吸収(穀氣) 呼吸(宗氣)	脾(胃) 肺	補脾(補中)
腎虚				
病態	症候	治法	主要生薬(氣剂)	
氣虚	量的不足	補氣	人参 黄耆 甘草 白朮 茯苓	
氣うつ	停滞	順氣	紫蘇葉 香附子 厚朴 枳実	
氣逆(上衝)	逆流・のぼせ	順氣	桂皮 紫蘇葉 竜骨 牡蛎	

金匱要略』八味(地黄)丸

中風歴節病篇
崔氏八味丸 治脚氣上入、少腹不仁、
血痺虚勞病篇
(虚勞裏急、諸不足、黄耆建中湯主之、)
虚勞腰痛、少腹拘急、小便不利者、
八味腎氣丸主之、
痰飲咳嗽病篇
夫短氣有微飲、當從小便去之、
苓桂朮甘湯主之、腎氣丸亦主之、
消渴小便淋病篇
男子消渴、小便反多、以飲一斗、小便一斗、
腎氣丸主之、
婦人雜病篇
問曰、婦人病飲食如故、煩熱不得臥、
而反倚息者何也、
師曰、此名轉胞、不得溺也、以胞系了戾、
故致此病、但利小便則愈、宜腎氣丸主之、
腎氣丸方、
乾地黄八兩、薯蕷四兩、山茱萸四兩、澤瀉三兩、
茯苓三兩、牡丹皮三兩、桂枝、附子炮、各二兩、
右八味、末之、煉蜜和丸梧子大、酒下十五丸、
加至二十五丸、日再服、

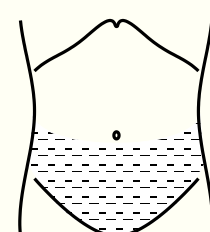
6

八味(地黄)丸の投与基準 (厚生省長寿科学総合研究事業 1995年度報告書より)	
A項目	B項目
1 排尿異常 (多尿・頻尿・尿利減少・夜間頻尿)	1 口渇または口乾
2 下半身優位の冷えまたは足底の煩熱	2 下肢の浮腫
3 腰下肢の疲労脱力・しびれ・疼痛	3 精力減退
4 小腹不仁または少腹拘急	4 視力障害(白内障・眼精疲労 目のかすみなど)
C除外項目 胃腸症状をきたしやすいもの	5 慢性呼吸器症状
	6 聴覚障害(難聴・耳鳴りなど)
D判定基準	A項目が2つ以上 または A項目1つで B項目が2つ以上

7

腹診(8) N92

小腹不仁
下腹部の知覚鈍麻⇒腹力低下



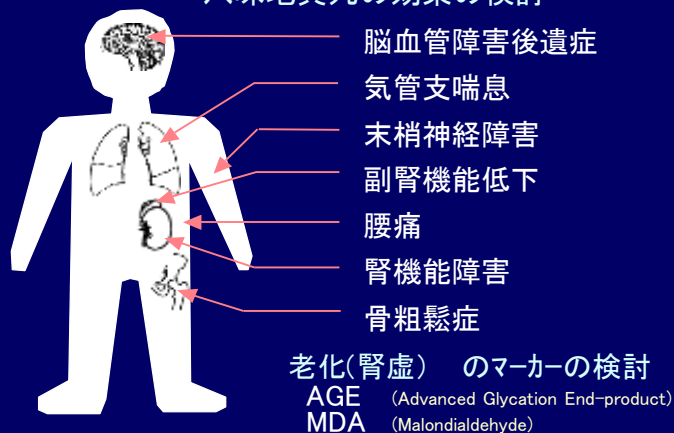
〔臨床応用〕
腎虚
(八味丸)

(臍下不仁)



8

高齢者の諸臓器機能低下に対する 八味地黄丸の効果の検討



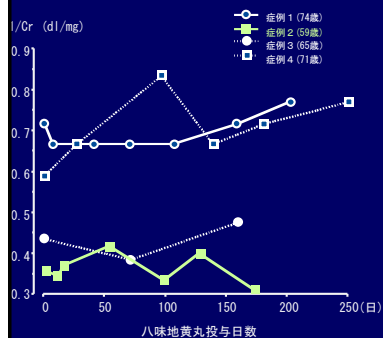
八味地黄丸の腎機能障害進展に対する影響

対 象

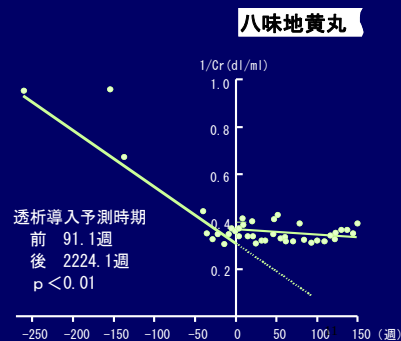
症例	年齢 (歳)	性別	原疾患	血清Cr値 (mg/dl)	血清β ₂ MG値 (mg/dl)	Hb (g/dl)	血圧 (mmHg)
1.M.Y.	74	男	腎硬化症	1.4	2.5	10.8	126-86
2.M.K.	59	男	慢性糸球体腎炎	2.8	4.9	13.0	142-84
3.T.N.	65	男	糖尿病性腎症	2.3	4.2	9.0	110-68
4.S.S.	71	男	糖尿病性腎症	1.7	8.2	14.9	108-70

八味地黄丸の腎機能障害進展に対する効果 (Cr<3.0 mg/dl)

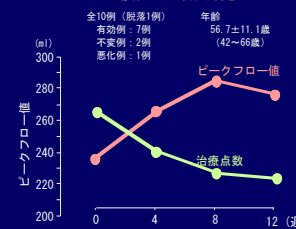
1/s-Crの変化



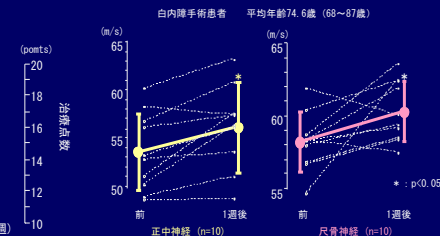
症例 2



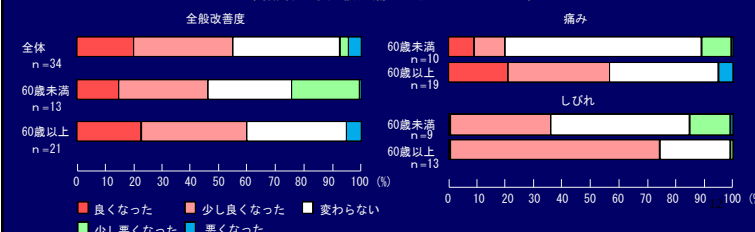
1 慢性気管支喘息



2 運動神経伝導速度



3 高齢者の手足腰の痛み・脱力・しびれ・冷え



脳血管障害後遺症に対する 八味地黄丸の効果

対象： 10 例 (男1 例 女9 例)
年齢 (75.8 ± 8.8 歳 63~91)
原疾患 脳梗塞 9 例 脳出血 1 例
罹病期間 6ヶ月以上

方法： 薬剤 八味地黄丸 M 60 丸 (分3・食後)
期間 4 週間

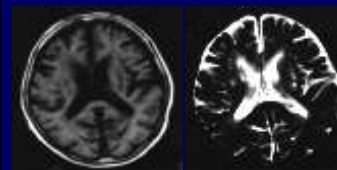
検討項目

やる気スコア (Apathy Scale : Starkstein)
うつ状態スコア (SDS : Self-rating Depression Scale)
局所脳血流量 (灰白質血流)
133Xe 吸入法 (島根医科大学第三内科)
32ch NOVO-Cerebrograph

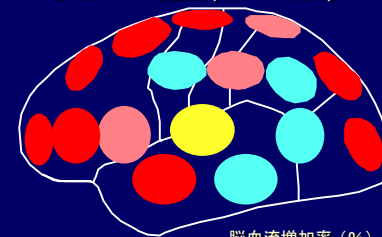
13

脳血管障害後遺症 (下手公一)

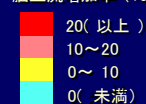
S.I. 83 歳 女 罹病期間2年



全脳血流 (ml/100g/分)
54.7 → 62.9 (+ 15%)

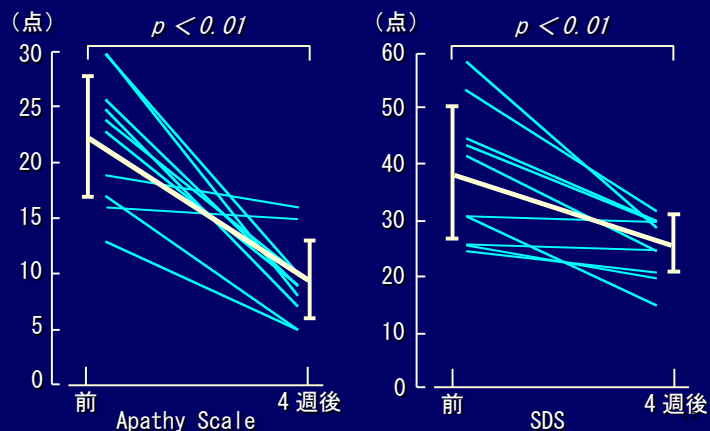


脳血流増加率 (%)



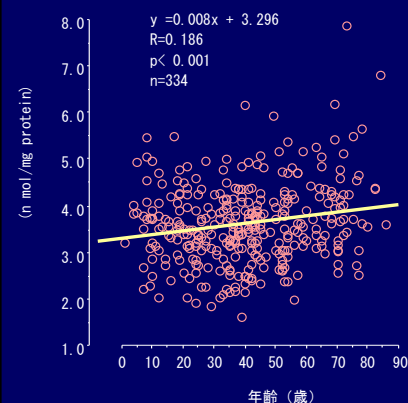
Apathy Scale (点)	30 → 8
SDS(点)	31 → 15
AGE (mmol/mg protein)	7.17 → 6.33
MDA (nmol/ml)	1.12 → 1.32
腎虚スコア点)	26 → 20

脳血管障害後遺症に対する 八味地黄丸の効果

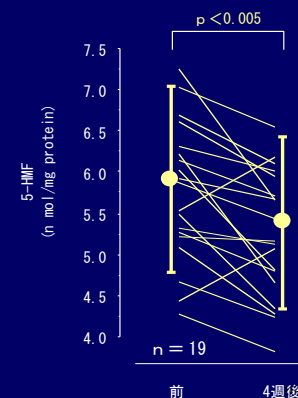


AGEと年齢との相関

AGE: advanced glycation end-product
糖尿病・腎障害・高脂血症を除く

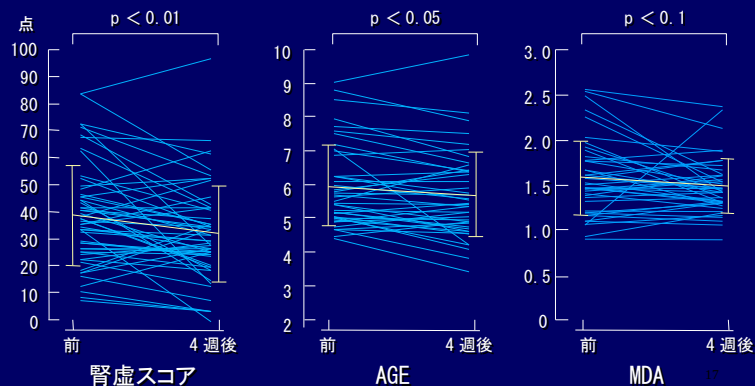


八味地黄丸のAGE (5-HMF) に対する影響

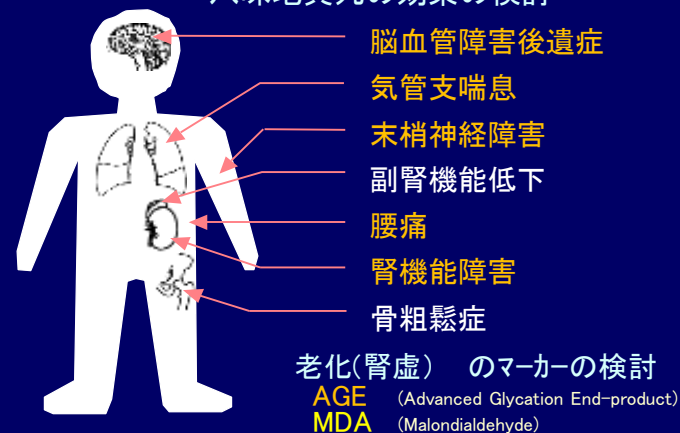


八味地黄丸の老化関連マーカーに及ぼす影響

(対象 54例 69.2±12.7歳 男/女:14/40)



高齢者の諸臓器機能低下に対する 八味地黄丸の効果の検討



八味(地黄)丸と類方

「腎虚」準太陰 虚・実の間

方 剤	構成生薬	主な使用目標
ハチミ(ジオウ)ガン 八味(地黄)丸	乾地黄 薯蓣 山茱萸 沢瀉 茯苓 牡丹皮 桂皮 附子	下半身・膝以下の冷え 尿量異常 夜間尿 腎虚 腰痛 下に乾く白苔 小腹不仁 心下痞鞭
ゴシャジンキガン 牛車腎気丸	八味丸+牛膝 車前子	八味丸証にして下肢の浮腫顕著
ロクミ(ジオウ)ガン 六味(地黄)丸	八味丸-桂皮 附子	八味丸証にして寒がない

* (別名) 八味丸 八味腎気丸 腎気丸 丸剤の方が有効との説あり。
糖尿病では大量を用いた方がよい(?) 原典では酒服

証の建て方・方剤の選択法

Ⅳ 陰陽を中心に

1. 寒熱に注目

寒が主体→陰証の可能性

温熱刺激(入浴やカイロ)で好転

寒冷刺激で悪化

足首が冷たい

熱が主体(寒が少ない)→陽証の可能性

2. 虚実も大切

極虚→陰証 強実→陽証

3. 表裏

“さむけ”と“冷え”を分ける

■ 気血水の変調としてみると?

■ 症候・病名・口訣を手がかりに

陰 陽: 自然界の相対概念

	<陽>	<陰>
自 然	天 夏 昼 日向	地 冬 夜 日陰
食 物	体を暖める	体を冷やす
薬 物	温(熱)薬	涼(寒)薬

21

薬 性 ← 薬物の陰陽

温(熱) (微温) 平 (微寒) 寒(涼)

服用すると体を温める

服用すると体の熱をとる

附子
乾姜
山椒
桂皮

甘草

黄連
大黄
芒硝
石膏

* 薬味: 五行説により臓腑と相関
酸(肝)、苦(心)、甘(脾)、辛(肺)、鹹(腎)

22

トリカブト



23

附子
(烏頭)



24

“冷え”の三大別

主 要 型	特 徴	漢 方 治 療
1. 全身型(真寒)	全身的な「寒」 典型的“冷え性”	温薬(附子・乾姜など) 四逆湯類 八味丸(下肢) 苓姜朮甘湯(腰)
2. 上熱下寒型	気(血)の上衝 温熱刺激でのぼせ	桂枝+甘草 黄連 苓桂味甘湯 桃核承気湯 三黄瀉心湯 温経湯
3. 四肢末端型	瘀血(血虚) レイノー様 凍瘡	当帰 駆瘀血剤 (虚証)当帰芍薬散 当帰四逆湯 (実証)桂枝茯苓丸
(補) 悪寒(仮寒) 熱厥	表証 熱極まって寒	桂枝(+麻黄) 柴胡剤 白虎湯

附子の使用目標

寒が存在することの確認が重要

1. 冷え症状がある:(真)寒に用いる
除外: 悪寒・悪風
上衝による上熱下寒
瘀血による末梢の冷え
2. 温まると症状が緩和される(気持ち良い)
冷えると悪化
3. 脈: 濇(渋る)
4. 『電氣温鍼』(小倉)の耐久時間が長い
2nd 10分以上でも気持ちが良い

附子中毒33例の検討

1995.11~1998.10 諏訪中央病院

附子投与	748例	附子使用量	1.9±1.4(0.3~14.0)
中毒	33例	中毒量	2.8±1.8(0.7~6.0)
中毒症状	舌・口唇周囲のしびれ(10) 動悸(5) 胸～心窩不快(5) 身体動揺感(3) 頭痛(3) 血圧上昇(3) 悪心・嘔吐(3) 不眠(2) 他		
中毒要因	煎じ時間の不足 方剤の変更 気候の温暖化 煎じ器の変更		

長坂ほか: 和漢医薬学雑誌16(4),1999

陰 陽: 自然界の相対概念

	<陽>	<陰>
自 然	天 夏 昼 日向	地 冬 夜 日陰
食 物	体を暖める	体を冷やす
薬 物	温(熱)薬	涼(寒)薬
病 態 (証)	「熱」が主	「寒」が主

病態の陰陽

漢方医学的な病態(証)を表す基本的なものさし

陽証



活動性
発陽性
熱が主体

熱がる
赤ら顔
膿性分泌物
濃縮尿
強く臭う下痢
裏急後重

非活動性
沈降性
寒が主体

寒がる
顔色不良
水様性分泌物
清澄尿
水様性下痢
裏急後重なし

陰証



29

漢方医学的な病態(しょう)の二大別



陽証

陽性の病態：体力が優勢

活動性
発陽性
熱が主体



陰証

陰性の病態：体力が劣勢

非活動性
沈降性
寒が主体

病気の進行方向
↓

30

陰陽と虚実

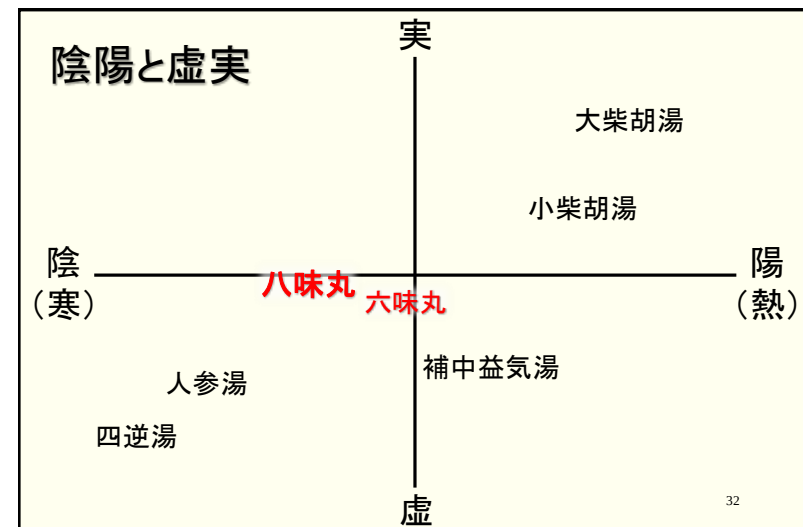
陰陽：体力の優劣

病態	病に対し	寒・熱
陽証	体力が優勢	熱が主
陰証	体力が劣勢	寒が主

虚実：生体反応の緊張度

病態	病に対し	脈・腹壁
実証	反応が充実	緊張あり
虚証	反応が虚弱	軟弱

31



32

漢方医学の陰陽

証(病態)		体内循環要素		薬性
全体	構成成分			
陽	陽証	表	熱 実	気 (温熱)
陰	陰証	裏	寒 虚	血 (血+水) (涼寒)

漢方医学の陰陽

証(病態)		体内循環要素		薬性
全体	構成成分			
陽	陽証	表	熱 実	気 (温熱)
陰	陰証	裏	寒 虚	血 (血+水) (涼寒)

証の建て方・方剤の選択法

■ 陰陽を中心に

1. 寒熱に注目

寒が主体→陰証の可能性

温熱刺激(入浴やカイロ)で好転

寒冷刺激で悪化

足首が冷たい

熱が主体(寒が少ない)→陽証の可能性

2. 虚実も大切

極虚→陰証 強実→陽証

3. 表裏

“さむけ”と“冷え”を分ける

▼ 気血水の変調としてみると？

■ 症候・病名・口訣を手がかりに

八味(地黄)丸類方と構成生薬

		地黄	薯蓣 (山薬)	山茱萸	沢瀉	茯苓	牡丹皮	桂皮	附子	牛膝	車前子
ハチミ(ジオウ)ガン 八味(地黄)丸	(乾)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴシャジンキガン 牛車腎気丸	(?)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロクミ(ジオウ)ガン 六味(地黄)丸	(熟)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

証の建て方・方剤の選択法

■ 陰陽を中心に

1. 寒熱に注目

寒が主体→陰証の可能性

温熱刺激(入浴やカイロ)で好転

寒冷刺激で悪化

足首が冷たい

熱が主体(寒が少ない)→陽証の可能性

2. 虚実も大切

極虚→陰証 強実→陽証

3. 表裏

“さむけ”と“冷え”を分ける

■ 気血水の変調としてみると?

▼ 症候・病名・口訣を手がかりに

腰痛

症例 69歳 女性

陰陽・虚実
気血水
症候・病名

【主訴】腰痛

【現病歴】

11月より**右膝の痛み**を主訴に当科通院中であった

12月より(寒さが厳しくなってきた)

ウエストラインを中心とした**腰痛**が出現してきた

安静時には強い痛みはない 動きだすときに痛む

冷えると痛みが強くなり

使い捨てカイロなどで**温めると緩和**される

【既往歴】50歳 糖尿病 66歳 気管支喘息

【家族歴】父:糖尿病、膵癌 母:肝疾患

38

腰痛

症例 69歳 女性

陰陽・虚実
気血水
症候・病名

【身体所見】

身長153cm 体重60kg 血圧180/100mmHg 体温35.8℃

【検査成績】:T-cho 242mg/dL TG 189mg/dL Glu 188mg/dL

腰椎レントゲン所見 異常所見なし

【漢方医学的所見】

自覚症状:**足が冷える**(特に膝から下) **足の裏がほてる**

食欲・排便良好 **夜間頻尿**傾向 **口渇+** 汗をかきやすい

他覚所見:

脈:沈 やや**実**

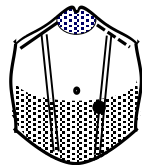
舌:舌質は**暗赤色** 腫大・歯痕なし

乾燥した白苔が中等度

腹:**腹力やや強い** 心下痞鞭あり

両側胸脇苦満あり 腹直筋緊張あり

左臍傍圧痛あり **小腹不仁**あり



39

腰痛

【臨床経過】69歳 女性

初診時 温めると痛みが改善することで

寒(冷え)が主体の病態と考えた

足(特に膝から下)の冷え 足の裏のほてり

ウエストラインを中心とした腰痛 小腹不仁より

Rp. **八味(地黄)丸料**(煎じ薬)を投与

2週間後 痛みが半分以上に改善し 動きやすくなった

足が冷えなくなった

4週間後 痛みは殆んどなくなった

40

高齢者の ほてり感

八味丸は 足底のみホテルことがある

蹠

八味地黄丸以外の方剤

温経湯 太陰病・虚証の瘀血＋上衝
冷えのぼせ 足冷手掌煩熱 口唇乾燥

掌

三物黄芩湯 少陽病・実証

小柴胡湯 少陽病正対の方・やや実

小建中湯 太陰病・虚証 虚弱腹力軟弱腹皮攣急

茯苓四逆湯 少陰～厥陰病・虚証 虚熱

掌蹠

41

高齢者の諸症 八味地黄丸以外の頻用方剤

胃腸障害	胃(腸) 腸	六君子湯 人參湯 大建中湯 + 真武湯
尿路愁訴		清心蓮子飲 猪苓湯
痛み	腰 膝 神経	芍薬甘草附子湯 苓姜朮甘湯 桂姜棗草黄辛附湯 防已黄耆湯 桂麻(附)の剤 桂枝湯類(+黄耆)+附子
ほてり感	掌 蹠 掌蹠	温経湯 八味(地黄)丸 三物黄芩湯 小柴胡湯 小建中湯 茯苓四逆湯
皮膚瘙痒		桂枝加黄耆湯 当帰飲子
不眠		柴胡桂枝乾姜湯 桂枝加竜骨牡蠣湯 酸棗仁湯
感冒		太陽病 直中の少陰：麻黄附子細辛湯 真武湯 少陽病：補中益気湯 柴胡剤

八味地黄丸証

高齢者の 痛み

八味地黄丸が頻用される

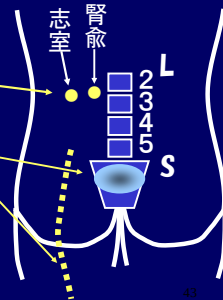
ウェスト(臍高)以下の痛み 例外：(左)肩関節痛

八味地黄丸以外の方剤

腰 [芍薬甘草附子(大黄)湯
苓姜朮甘湯
桂姜棗草黄辛附湯
(オマケ 五積散)

膝 [防已黄耆湯
桂麻(附)の剤

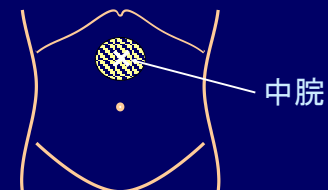
神経 桂枝湯類(+黄耆)+附子



42

腹診(3)－3

心下堅
大如盤
辺如旋杯



〔臨床応用〕
桂姜棗草黄辛附湯
枳朮湯



44

膝関節痛 私の頻用処方

方 剤	六病位	虚実	使用目標・応用
防己黄耆湯	太陰	虚	関節液滞留 寒・暑とも弱い 自汗 下肢浮腫鈍重 水肥り 蝦蟇腹 尿不利
桂枝芍薬知母湯	太陰	間	関節変型 腹直筋攣急 身体枯燥
八味(地黄)丸	準太陰	間	下半身・膝以下の冷え 小腹不仁 心下痞鞭 尿利異常 夜間尿 腎虚
桂枝茯苓丸	少陽	実	瘀血 細絡 左膝優位
治打撲一方	少陽	実	打撲・外傷後疼痛 長距離歩行後など

* 基本的には関節リウマチに準じた処方運用。上記処方の類方も鑑別して用いる。

45

桂枝芍薬知母湯・覚え

(金匱要略) 諸肢節疼痛 身體尪羸 脚腫如脱 頭眩 短氣 温温欲吐

桂枝四兩. 薬効を表に導く
芍薬三兩. 甘草と組んで(腹直)筋の異常緊張を和らげる
甘草二兩. 急迫を鎮める
麻黄二兩. 表・実の水毒を逐う
生姜五兩. (含有量が多い)発汗解表
白朮五兩. 利水 間質の水毒を逐う 補気
知母四兩. 潤しながら熱を鎮める
防風四兩. 表を守る 関節を滑らかにする
附子二兩. 熱薬 散寒止痛 利水

三瀦の
試論
私論

関節: 触るとゴツゴツ(変形) くすぶった熱感
皮膚乾燥の傾向
脈は弱くない(陰証 虚実中間?)
腹直筋緊張: 比較的厚みがある 深い位置で触知

夜間頻尿

症例 78歳 男性

陰陽・虚実
氣血水
症候・病名

【主訴】夜間頻尿

【現病歴】2・3年前より尿線が細くなる 尿が気持ちよく出ない
頻尿などの**排尿障害**が出現

泌尿器科で**前立腺肥大症**の診断

西洋薬での治療を受けたが症状は改善しなかった
昼夜とも**頻尿傾向** 特に夜間は多い時で10回ほどの頻尿
高血圧症があり 降圧剤の投与を受けている

【既往歴】40歳 高血圧 74歳 胃潰瘍

【家族歴】両親とも高血圧 脳血管障害で死亡

47

夜間頻尿

症例 78歳 男性

陰陽・虚実
氣血水
症候・病名

【身体所見】

身長160cm 体重59.6kg 血圧188/94mmHg
胸部聴打診上異常なし 腹部で腫瘤を触知せず **浮腫一**

【漢方医学的所見】

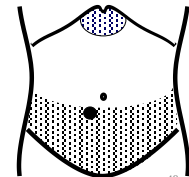
自覚症状: **寒がり** **足が冷える** **腰・膝が痛い**

他覚所見:

脈: **沈・虚実間**

舌: 舌質は淡紅色 **齒痕**軽度あり
やや乾燥した白苔を少し認める

腹: **腹力は中等度より少し弱い**
軽い心下痞あり **少腹不仁**あり
右臍傍圧痛あり



48

夜間頻尿

【臨床経過】78歳 男性

初診時 **Rp. 八味(地黄)丸エキス3P** 分3 毎食前
腹力が少し弱かったことや心下痞があったことより
八味地黄丸で消化器症状がでることを心配した

2週後 下痢・食欲不振などの消化器症状は見られなかった
下半身の冷えが少し軽くなったか？という程度 頻尿不変
Rp. Do

4週後 夜間尿は1-2回と劇的に改善

3月後 腰痛、膝の痛みが楽になり歩くのに調子よい
コントロール不良で高かった血圧もに低下
130~150/80~90mmHg

49

高齢者の 尿路(不定)愁訴

八味地黄丸が頻用される

八味地黄丸以外の方剤

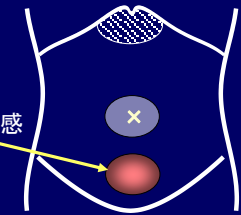
清心蓮子飲

脾胃虚 神経性頻尿・尿意切迫

猪苓湯

“下焦の熱” 小腹(下腹)の熱感

排尿時痛・尿路の熱感・血尿
膀胱炎(様症状)・尿路結石



50

高齢者の

胃腸障害

八味地黄丸は用いにくい

胃(腸) 六君子湯 人參湯 三つの瀉心湯
腸 大建中湯

八味地黄丸は補腎薬 中焦(脾胃≒胃腸機能)は護らない

胃に障るとき

1. 酒服
 2. 人參湯と合方
- 他. 清心蓮子飲を考慮

51

構成生薬からみた補気剤の鑑別

半夏 陳皮	茯苓 白朮 人參 甘草	乾姜 附子
六君子湯		
四君子湯		
人參湯		
		四逆湯
水毒を去る	脾を補い気を益す	中を温め寒を去る

甘草が多い

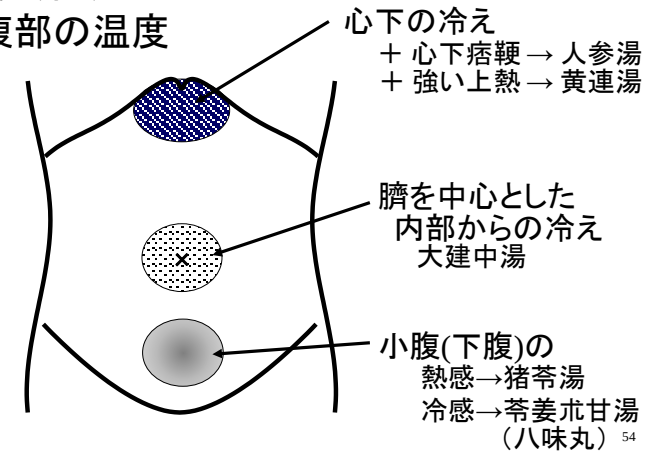
陰証の主な治療方剤5

下痢を中心として・・・四逆湯類 真武湯を除く

方 剤	構成生薬	使用目標・応用
桂枝人参湯	桂枝 甘草 白朮 人參 乾姜	協熱利 表証を挿む 慢性頭痛
人 参 湯	人參 甘草 乾姜 白朮	胃弱 心下痞鞭 下痢 四肢冷喜唾 胸痺
大 建 中 湯	蜀椒 乾姜 人參 膠飴	腹力軟弱 腸異常蠕動(蠕蠕) 腹中冷痛
附子粳米湯	附子 半夏 甘草 大棗 粳米	腹中寒気 雷鳴切痛 胸脇逆満 嘔吐

腹診(付)

腹部の温度



真武湯方

茯苓三兩 芍薬三兩 生薑三兩切
附子一枚 炮去皮破八片 白朮二兩
右五味 以水八升 煮取三升 去滓
温服七合 日三服

少陰病二三日不已至四五日腹痛
小便不利四肢沉重疼痛自下利者
此為有水気其人或欬或下利或不利
或嘔者玄武湯主之

傷寒論少陰病篇

太陽病発汗汗出不解其人仍発熱
心下悸頭眩身瞤動振振欲擗地者
玄武湯主之

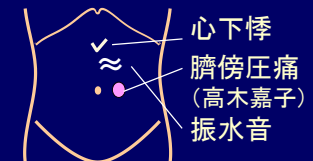
傷寒論太陽病中篇

真武湯

真武湯の使用目標

(傷寒論 太陽病中篇) 太陽病 発汗 汗出不解 其人仍

- ①発熱
直中の少陰にも適応
麻黄附子細辛湯証は無熱
- ②心下悸(腹候)
直中の少陰にも適応
麻黄附子細辛湯証は無熱
- ③頭眩 身瞤動
フラツとするクラツとする
雲上を歩むが如し
斜行感
- ④振振欲擗地者
困するといえど窮することなし



玄武湯主之。

脈候 “木綿糸”

高齢者の

皮膚搔痒(+しびれ)

八味地黄丸は用いられる

表(ひょう)の異常と血虚を考慮

表の異常 桂枝湯類+黄耆
血虚(皮膚乾燥) 四物湯 当帰飲子

57

皮膚疾患の主な治療方剤

方剤群	主要方剤	補血 当帰芍薬川芎(熟)地黄 →四物湯 温清飲 → 一貫堂処方
I. 清熱剤	石膏剤 黄連剤 白虎湯類 消風散 黄連解毒湯	
II. 柴胡剤 (+ 駆瘀血剤)	大柴胡湯 柴胡加竜骨牡蠣湯 柴胡桂枝湯 柴胡桂枝乾姜湯	(合) 四物湯 ≡ 小柴胡+帰耆建中
III. 駆瘀血剤	桃核承気湯 桂枝茯苓丸 当帰芍薬散	芎帰膠艾湯
IV. 桂枝・黄耆剤 (表を目標)	桂枝加黄耆湯 黄耆建中湯	帰耆建中湯
V. 甘草乾姜湯類 (虚・寒証)	人参湯 附子理中湯 茯苓四逆湯 通脈四逆湯	

58

表裏の概念

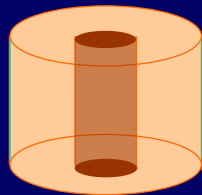
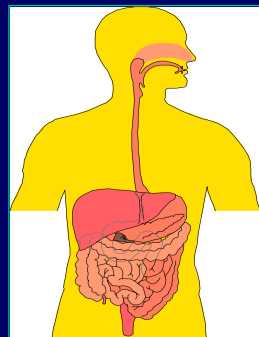


表 皮膚 関節 神経
口腔～上気道

半表半裏
胸膈内臓器
横隔膜周辺

裏 消化管

59

太陽病の主要処方と使用上の目標

急性熱性病初期＝発熱を前提とした悪寒がある

虚実	処 方	自汗	咽痛	特 徴
実	大青竜湯 麻黄湯 葛根湯	— — —	— — —	煩躁 口渴 関節痛 項背強ばる
虚	桂枝二越婢一湯	+	+	熱多く寒少なし 口渴
実	桂枝麻黄各半湯	+	+	熱多く寒少なし 不渴
間	小 青 竜 湯	+	+	水毒 (寒)
虚	桂枝加葛根湯 桂枝湯	++ ++	— —	項背強ばる 上衝 (表虚証の代表)

60

桂枝加黄耆湯

金匱要略 水氣病篇

黄汗之病。兩脛自冷。假令發熱。此屬歷節。食已汗出。又身常暮盜汗出者。此勞氣也。若汗出已。反發熱者。久久其身必甲錯。發熱不止者。必生惡瘡。若身重汗出已。輒輕者。久久必身重。即胸中痛。又從腰以上必汗出。下無汗。腰髀弛痛。如有物在皮中狀。劇者不能食。身疼重煩燥。小便不利。此爲黄汗。桂枝加黄耆湯主之。

●桂枝加黄耆湯方

桂枝、芍藥各三兩、甘草二兩、生薑三兩、大棗十二枚、黄耆二兩、右六味、以水八升、煮取三升、温服一升、須臾飲熱稀粥一升餘、以助藥力、温服取微汗、若不汗更服。

シビレ
に應用

黄疽病篇

諸病黄家。但利其小便。假令脉浮。當以汗解之。宜桂枝加黄耆湯主之。

黄耆

神農本草經 上藥

黄耆一名戴糝。味甘微温。生山谷。治癰疽久敗瘡。排膿止痛。大風癰疾。五痔鼠瘻。補虛。小兒百病。

藥徵

主治肌表之水也。故能治黄汗。盜汗。皮水。又旁治身體腫。或不仁者。

中医臨床のための

中藥学(神戸中医学研究会)

補氣昇陽 補氣攝血(出血)
補氣行滯(血痺による痺れ・運動障害)
固表止汗 托瘡生肌 利水消腫

モノグラフ生薬の薬効薬理(鳥居塚和生)

血圧下降 利尿 線溶系活性化
抗炎症・アレルギー 免疫賦活 抗腫瘍
肝障害抑制 強壮 抗菌 記憶改善 抗酸化

61

62

桂枝・黄耆剤

主な方剤と使用目標

方 剤	病 位	虚実	使用目標・応用
小 建 中 湯	準太陰	虚	腹直筋緊張(薄) 腹痛 手足煩熱果物顔 虚弱(児)の諸症
当 帰 建 中 湯	太陰	虚・間	小建中湯+血虚(瘀血) 少腹拘急
黄 耆 建 中 湯	太陰 —少陰	虚	小建中湯+疲労衰弱 盗汗 皮疹 化膿
帰 耆 建 中 湯	太陰	虚・間	当帰建中湯+黄耆建中湯
桂枝加黄耆湯	太陽 —太陰	虚	湿疹に頻用 表虚 自汗 盗汗 熱少し(+熱→桂枝二越婢一湯加黄耆※↓)

※↑ 桂枝加黄耆湯(桂枝湯+黄耆末)+越婢加朮湯

63

桂枝加黄耆湯を基本とした方剤の組み立て

- 1) 基本方剤 桂枝加黄耆湯(黄耆建中湯)
- 2) 身体全体に冷えがある → (加) 附子
- 3) 熱候(口渴・舌の赤さ) → 桂枝二越婢一湯(麻黄・石膏)
(桂枝加黄耆湯 + 越婢加朮湯)
- 4) 皮膚の炎症が強い → (加) 荊芥・連翹
- 5) 皮膚の乾燥が強い → (合) 四物湯*, 帰耆建中湯

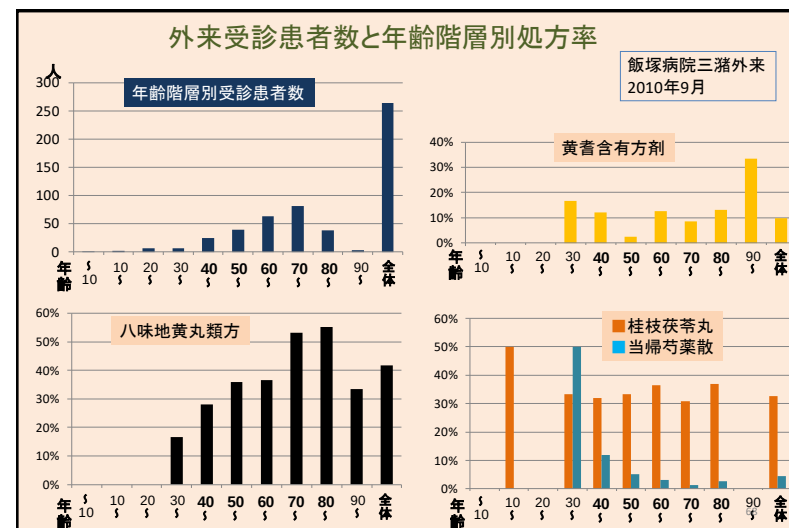
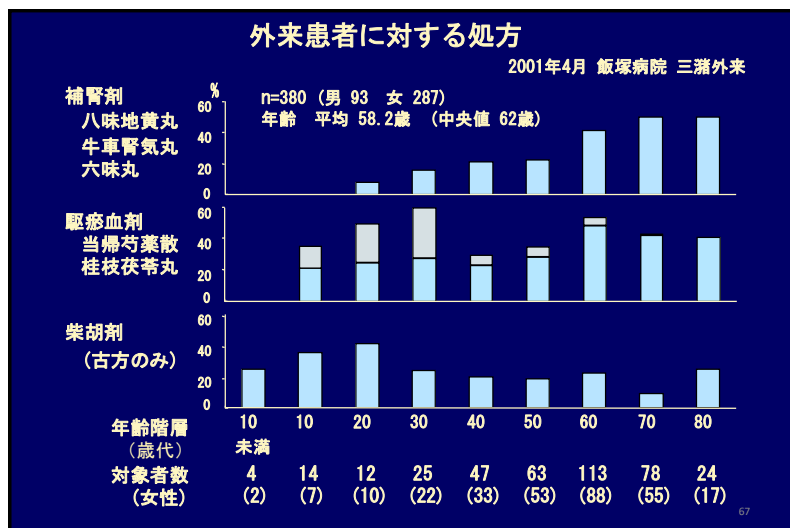
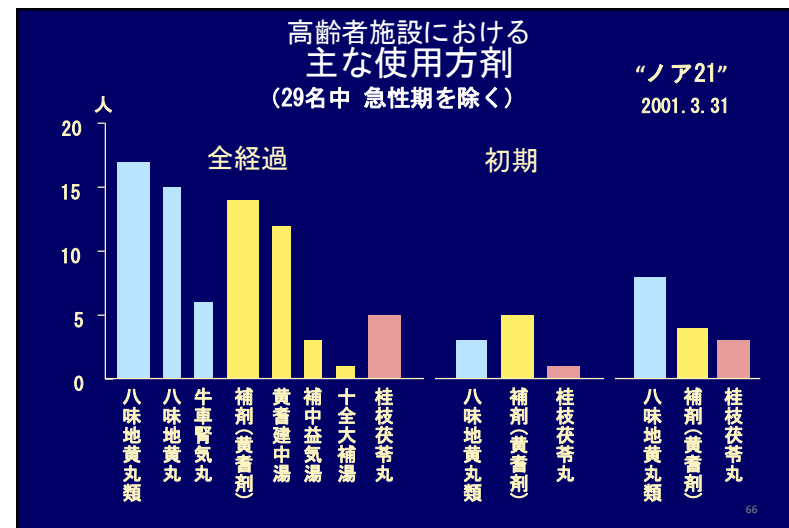
* 熟地黄により滲出性の悪化を来しやすい

** 胸脇苦満 → 柴胡桂枝湯 ≡ 小柴胡湯 + 桂枝湯

↓ + 芍薬(膠飴)
小建中湯類

64

高齢者の諸症		八味地黄丸以外の頻用方剤
八味地黄丸証	胃腸障害	胃(腸)腸 六君子湯 人参湯 大建中湯 + 真武湯
	尿路愁訴	清心蓮子飲 猪苓湯
	痛み	腰 芍薬甘草附子湯 苓姜朮甘湯 桂姜棗草黄辛附湯 膝 防己黄耆湯 桂麻(附)の剤 神経 桂枝湯類(+黄耆)+附子
	ほてり感	掌 温経湯 趾 八味地黄丸 掌趾 三物黄芩湯 小柴胡湯 小建中湯 茯苓四逆湯
	皮膚瘙痒	桂枝加黄耆湯 当帰飲子
	不眠	柴胡桂枝乾姜湯 桂枝加竜骨牡蠣湯 酸棗仁湯
	感冒	太陽病、直中の少陰：麻黄附子細辛湯 真武湯 少陽病：補中益気湯 柴胡剤



代表的駆瘀血剤(瘀血治療薬)

桂枝茯苓丸

当帰芍薬散



69

代表的駆瘀血剤(瘀血改善剤)

桂枝茯苓丸(けいしぶくしょうがん)



桂枝(皮)



茯苓



桃仁



芍薬

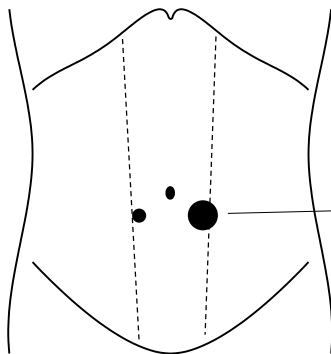


牡丹皮

「立てば芍薬
座れば牡丹
歩く姿は
百合の花」

桂枝茯苓丸

少陽
実



(特徴)
頬に赤み
婦人病
各種虚血性疾患

(左) 臍傍圧痛

71

望診
瘀血篇

手掌紅斑



眼輪部の色素沈着



舌・口唇の暗赤色

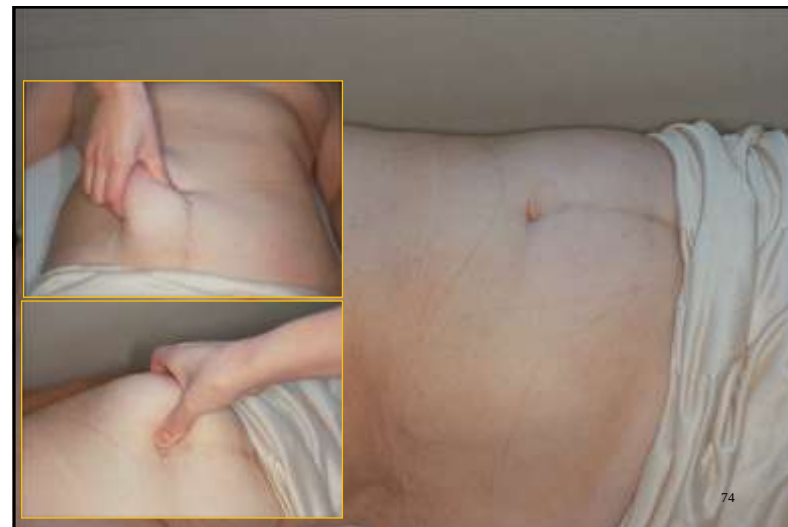
皮下溢血



細絡(毛細血管拡張)



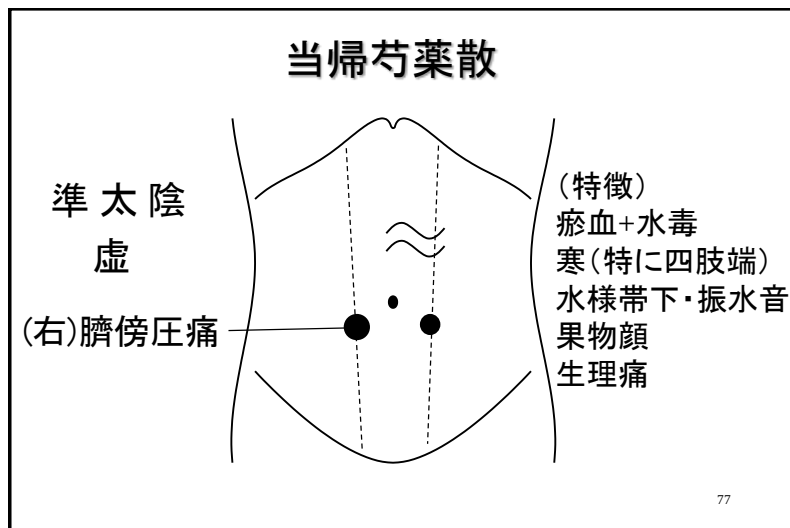
72



代表的駆瘀血剤 2
当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)

当帰	芍薬	川芎	
茯苓	沢瀉	光	

76



高齢者における漢方治療

- 随証治療が基本である
年齢を意識しすぎない
- 八味地黄丸(類方)と桂枝茯苓丸は有用
参考剤(補剤)が主体とは限らない
- 天寿までの元気に役立つ(ピンピン・コロリ)
究極の“ケア”

78

高齢者の諸症		八味地黄丸とその他の頻用方剤	
八味地黄丸	胃腸障害	胃(腸) 腸	六君子湯 人參湯 大建中湯 + 真武湯
	尿路愁訴		清心蓮子飲 猪苓湯
	痛み	腰	芍薬甘草附子湯 苓姜朮甘湯 桂姜棗草黄辛附湯
		膝	防己黄耆湯 桂麻(附)の剤
		神経	桂枝湯類(+黄耆)+附子
	ほてり感	掌	温経湯
		趾	八味地黄丸
		掌趾	三物黄芩湯 小柴胡湯 小建中湯 茯苓四逆湯
	皮膚癢痒		桂枝加黄耆湯 当帰飲子
	不眠		柴胡桂枝乾姜湯 桂枝加竜骨牡蠣湯 酸棗仁湯
感冒			太陽病、直中の少陰：麻黄附子細辛湯 真武湯 少陽病：補中益気湯 柴胡剤 + 桂枝加厚朴杏仁湯

本日の結論

「老人を診たら

八味丸

を想え！」

八味丸を基準として鑑別

桂枝茯苓丸まで処方できたら シメシメ

80